

各村に於いて適當な指導者を得て特に努力されることが望ましい。

郷土讀本は一市町村を單位とすべきも大都市に於いては一、二學區を以つて一單位とすべきである。例へば京都市に於いては鴨川以東の勝景區域、中央の商業區域、西方及び南方の工業區域は何れも地理的環境の著しく異なる所であるから、之を各々に分けるべきは勿論各地區を更に二、三に分割して郷土讀本を作ることが最もよいと思ふ。例へば東側に花崗岩の山をひかへ其の大半が石工なる北白川と、古生層の山麓に寺院のみが立ち並び之によつて居食する東山山麓の住民とは自から其の環境と自己との關係が

著しく異なるからである。此の如く小地區に分けて郷土讀本を編み一卷百頁とし圖版二三箇を挿入するも初版千部とすれば恐らく三、四十錢の費用を以つて出版し得ると思はれる。之を三、四年毎に改版、次第に精選されたものとすれば其の環境に新開拓に對する効果は甚大なるものであらう。

實に一國の興隆は一村一町一市興隆の全體の結果に外ならぬものであるから、此の如き方法も又た以つて十年或は二十年後國家を興隆せしむべき有力なる一方法たるを失はぬ。又た此の編纂は各郷土にある小學校職員諸士の有効にして手頃なる仕事と思はれる。

伊賀盆地に於ける墓地の地理的考察

辻井 浩太郎

目次

一、緒言

二、墓地の特相

三、分布

四、史的考察の一端

五、地理的考察

一、緒言

鈴鹿、布引兩山脈と笠置山塊とに圍まれた伊賀盆地はその地形に對應して特色ある人文景觀を澤山もつてゐる。

例へば古來耕地の制限を受けて、食糧問題と人口問題とは重大な生活問題であつた。墮胎は曾つて普ねく行はれて、人口統制となり、粥食は食糧調節となつて、其習慣は今日尙廣く残つてゐる。盆地の周縁は可なりの高地まで耕作して重税に應じた跡があり、道路は故意に迂廻させて耕地の増加を計つてゐるのが見受けられる。土地の制約が、人類生活のどの點まで及んでゐるかを見るための一の例として爰に伊賀に於ける墓地に觸れてみた。

墓地は聚落研究の一部として考察さるべきであらう。殊に祖先崇拜の重んぜられる我國ではその位置など決して無意味である譯はない。而して此處に捉へ來つた伊賀盆地では、其の位置構造が、歴史的に意味があるばかりでなく、ま

た地理的影響をも受けてゐると信ずるのである。

墓地に關する土俗的及び歴史的方面の考察でなく、地理的考察を重く視る本稿は、眞の墓地の特相を明らかにするものでなく、又此の方面の古い記録の無いために、考察の不充分、獨斷の點もあらうが、特に其の地理的環境との關係を明にしたいと思ふ。

二、墓地の特相

本盆地墓地の特相は大部分、一聚落に墓地が二ヶ所あることである。一つは屍體を埋葬する墓地で、他の一つは、靈を祭る墓石のある處である。此の二つの墓地が一組の墓地となつてゐるから、何れの家も二種の墓地を共有することになる。即ち埋葬地と墓地とである。

(A) 埋葬地

屍體を埋葬する共同墓地で、サンマイ(三味梵語 "Samadhi"、"三摩地"「三摩提」から。墓地のこと)と呼んでゐる。

宗派の如何に關せず火葬は極めて稀である。埋葬地では屍體を埋葬した上に墓石を建てず、簡単な木標を立てて、暫くの間の目印とするに過ぎない。此の簡単な木標さへも立てない場合が多い。普通の墓地のやうに家によつて區割を設けないから、或る年數を経過すれば、甲家の屍體の上に、乙家のを埋葬する。即ち土地の狭いために比較的古く埋めた處から順次掘つて埋葬する。

而して此の埋葬地の位置は多く聚落を離れ、中には一軒から二軒も遠いものがある。

(B) 墓 地

墓地には遺骨も埋葬せずに、唯墓石のみを建てる。これをハカバ、又はセキトウバ、或はセキトウバラと呼ぶ、石塔婆、石塔原、石塔場の意味で、墓石のことを石塔といふ。

此處は家々によつて區割され、多くは寺院の境内或はその附近で、聚落内にあるを普通とし聚落外に設ける場合と雖も、甚しくは遠ざから

ない。地方の人の墓地として尊敬するのは此の墓地であつて、前の埋葬地に對しては割合に冷淡である。

(C) 『ラントバ』なる墓地との相異點

伊勢の榊田川上流の山間聚落、飯南郡波瀨村森村の一部、及び志摩國の一部、波切町、鏡浦村の石鏡などは何れも土地の制約を受ける山村或は岬の漁村であるが、伊賀の墓地によく似たものである。

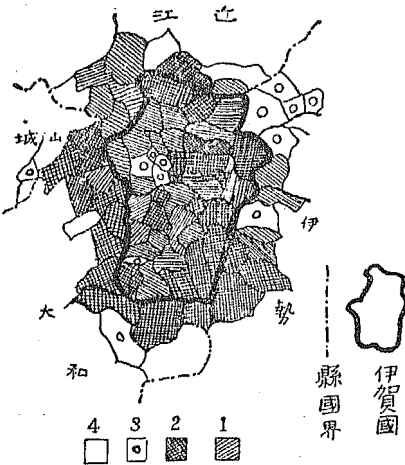
そこでは埋葬地と墓地とは別になつてゐるが埋葬地は家毎に區割され、そこに墓石も建ててそして是等の埋葬地は何れも、聚落から離れてゐるため、聚落の内にある寺院の境内が、その附近に、各戸とも夫々墓石を建てて、ラントバと呼ぶ。ダントバと呼ぶこともあるが、ランガンと訛つたもので、『卵塔婆』の意味らしい。つまり此の地方は二ヶ所に墓石を建てるのであつて、伊賀の埋葬地に墓石を建てぬ點と著しい相違がある。

以上の特様な様式の他に、稀ではあるが、火葬した場合は遺骨の上に墓石を建て、土葬した上に墓石をたてる普通の墓地もある。以下この種のものを『普通の墓地』と記す。

三、分布

第一圖は前記の特相を持つ村の分布を伊賀を中心として示したものである。

第一圖 墓地の特相の分布



伊賀盆地に於ける墓地の地理的考察

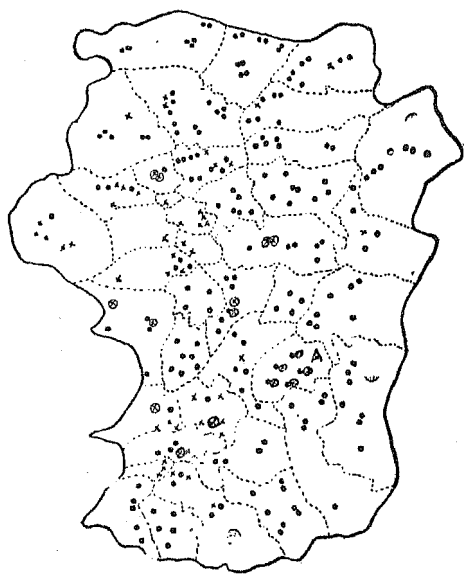
- 1 別と別々の村の墓と町村
 2 別と別々の村の墓と町村
 3 普通の墓地ばかりの村
 4 普通の墓地ばかりの村

分布状態は、伊賀を中心に、四周は近江・山城・大和・伊勢の山間部に及び、特に伊賀と境を接する地に著しく、それが丘陵地、平地となるに随ひ漸次無くなる。調査の不充分と回答に接しない村が多いため判然たる分布を示すことが出来ぬが、大體に於て、此の特相は管見に於れば此の地方の山地獨特のものであつて、伊賀盆地だけは可なりの平坦部にも見られる。盆地中で普通墓地ばかりの處は、上野・名張の市街地及びその接續村落のみである。

第二圖の伊賀に於ける分布を見ると、山間部に此の特相が著しく目立ち、普通墓地は上野小盆地、名張小盆地の平坦部に多い。

此の盆地では、明治初年までは、普通の墓地は非常に少なく、殊に山間部では殆んど見當らなかつたものらしく、その後墓地整理があつて埋葬地を廢し、墓地を擴張するか、新しく墓地を設けて普通の墓地とした村がある。圖中⊗印がそれである。圖中Aを附したる阿保町などは

第二圖 伊賀盆地に於ける墓地の特相



……町村界

⊗ 明治以來普通の墓地
 に改良されしもの
 ・ サンマイとハカバと
 別のもの一組を示す
 × 普通の
 墓地

此の過渡時代にあるもので、一聚落に古い型と新しい型とを各々一つ宛持つてゐる。

四、史的考察の一端

伊賀に關する古文書中に墓地に就いての記載が見當らないので、確實でないが、墓碑などが

ら察して、足利時代までは、全部火葬にしたらしく、處々に昔の火葬場の跡が発見される。

其の火葬が何の理由で全部土葬になつたか、これに就いても記録が見つからぬため判然しない。

喜田博士によると古代は神教であつて、屍體は『死骸』であるから、山か谷に捨てたもので、佛敎傳來以後『死骸』は『成佛』となつた。此の宗教的思想は、捨てる習慣を改め、屍をあつく埋葬して、墓標を立てる様になつた。此の古い型が伊賀を中心として残つてゐるのではなからうかと。

現に此の盆地では、埋葬地に土葬する事を『ステル』と云ふ。勿論捨てる意味で、右の説が今では唯言葉の上に残つてゐるものと思はれるが、一方精神的にも、埋葬地は餘り尊敬されずにあるのは『捨てる』と云ふ言葉に相當の内容を持つてゐるものと思ふ。

古代捨てたにせよ、簡單に葬つたにせよ、それがあつく土葬されるやうになつたものが、そ

の後全部火葬となり、後また土葬に遷つた宗教的、土俗的、歴史的理由は私にはわからない。

同じ近畿の他の地方で、古代の型が、新しい普通の墓地に變つて失つたのに、伊賀を中心として、而も交通線の末梢部たる、此の地方の山間部のみに、古い型が残つてゐるのは、何の理由か、私は此の理由の一つとして地理的に考察してみたい。

五、地理的考察

すべての埋葬地は聚落の外にある。その様式は三つとなる。

(A) 埋葬地の三様式

(イ) 聚落より高處へ持つて行くもの

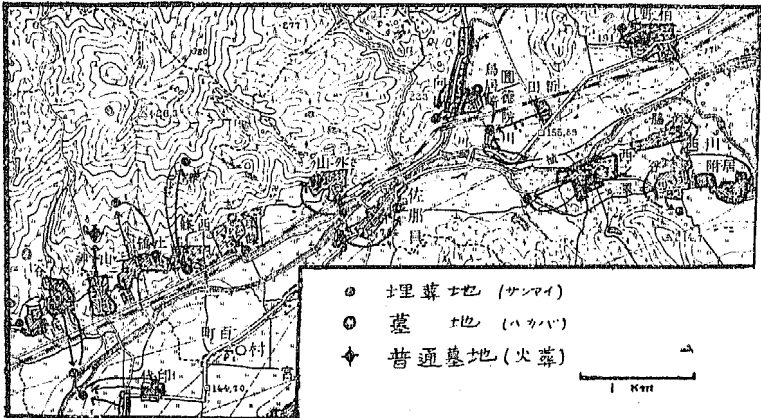
第三圖は盆地の北部上野斷層崖附近であるが、西條の如く三〇〇米近くの高地まで持つて行くものがある。此の聚落は一五〇米内外である。

此の様式が最も多い。

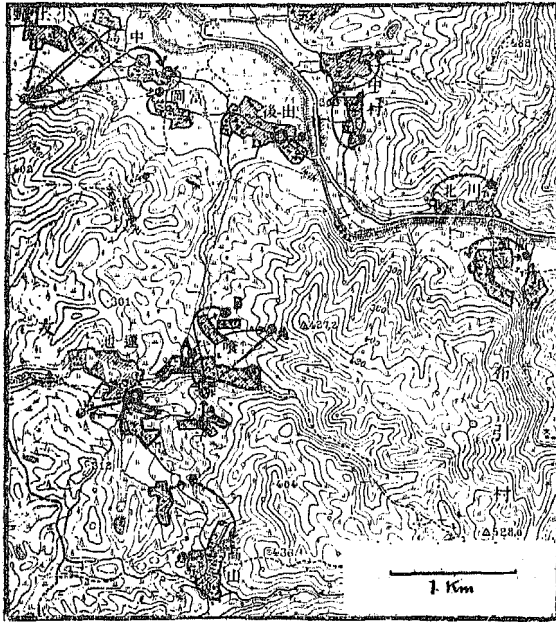
山神は、先年傳染病流行して、火葬と

伊賀盆地に於ける墓地の地理的考察

第三圖



第 四 圖



地 球

第十四卷

第六號

第四

四四

なり遺骨を埋葬して、その上に墓石を建てる普通の墓地となり、その後引續き火葬をしてゐる。

(ロ) 聚落より低處に持つて行くもの
川に沿ふ聚落に多い。第三圖の大谷、

印代、外山、佐那具、第四圖の廣瀬、出後など川原へ持つて行く。

(ハ) 埋葬地が二つ以上で墓地が一つのもの
第四圖の喰代は宗派によつて埋葬地を別にし、Aは禪宗、Bは真宗で、墓地は一つ。

宗派に關係なく二つ以上の埋葬地に對して、墓地が一つしかないものがある。
第四圖の高山、第三圖の大谷、塚脇、川西、居附などその一例で、丸柱村の音羽は四つで、墓地が一つ。

(B) 面積

家毎に區劃を設けない埋葬地は狭い。たとへ區劃を取つても其處に埋葬しない墓地も亦狭い。

盆地の南部の山間には、二十坪内外の埋葬地や墓地が、人口三百人餘りの聚落に對して存在してゐるから、人口や面積に比して何程にも當らぬ。

(C) 地理的考察

埋葬地も墓地も多くは耕地にならぬ地を選ぶためと、人情の常として、死を嫌ひ屍を遠ざけたいとの理由で、普通の聚落で見るやうに埋葬地は聚落を離れる。

此の盆地は山麓聚落が多く、それより高處は耕地としては、傾斜と灌溉水の點から不適當である。大部分の埋葬地が聚落より、高處にあるのは平地の耕地に制限された結果である。

谷に沿ふ聚落では、川原に荒蕪地があれば其處に設ける。山麓聚落では、前に川原のない限り下へは持つて行かぬ。低い處は全部立派な耕地となるからである。

埋葬地が二つ以上で、墓地を一つとするのは聚落内か、その近くに設けなければならぬ墓地の面積の大きくなるのを恐れた爲である。

遠く離れた埋葬地は參詣するに不便である。これを近くに設けて普通の墓地とするには、自然面積が大きくなり耕地が減少する。聚落内に

設けるには、狭くてもよい墓石のみのものとなる。これも藪の蔭や耕地として價値の少ない處を選んでゐる。又耕地内にある普通の墓地も同じ傾向が見受けられる。

土地の制約を受けて已むを得ず、自分の聚落附近に最後の安息所を得られないのは人情として悲しい事であらう、誰しも山の上や増水すれば水の浸たる川原の埋葬地よりも、朝夕勤行の聲の聞える寺院の側の墓地に埋葬される事を欲するに違ひないが、墓地が狭いからそれも不可能である。

これは府中村の一ノ宮、新居村の西山などの墓地では、寺へ多額の金を寄附すれば、狭い墓地へも埋葬して貰へる事や、柘植村の下柘植では寺院の敷地と墓地とを寄附した、柘植喜平（徳川初期）の一家だけは、その後永代寺院内の墓地に埋葬される事などから考へられる。

南部の國津村の奈垣、羽根、神屋、布生などの山間聚落では、埋葬地を各聚落に一つ宛共有

し、墓地は集合せず、各自の所有地の畑の一隅に墓地だけを建てる。此の様式は、伊賀以外の地方にも見られるが、此の場合埋葬地だけを別に共有してゐるか、此の點調査が進んでゐない。これは土地の制約のほか、家が遠く離れて散在してゐる爲と思ふが、それ以外歴史的、土俗的に理由の存するものに思はれる。

以上私は我が居住地たる伊賀附近の墓地に對

して淺薄な觀察と考察とを致しましたが、他の地域や歴史的乃至土俗的方面に關しては御指導をお願ひします。

(附記) 以上の如き墓地の形式は餘程珍らしいものと聞く。愛知縣八名郡下川村(豊橋市附近)に此の形式があるとの事で照會したが回答がない。恐らく他の地方にもあるものと思ふ。その地理的及びそのほかの理由につき御指導を賜りたい。(完)

新譯 日本地學論文集 (七)

ライマン——日本油田調査第二年報 (三)

經濟事情 利益が増す様にする事は主として油井に付き三百圓以内の平均費用で鑿井することと係つて居る。(費用を減ずるには一般に油井を三百呎以内にするとか或は採光又は其他の鎖事を改良して、以て今よりもつと急速に且つ安價に仕事するにある。)又は鑿井を全然不成功に終らせる場合を少なくすること、又は三十

五箇月間一日二ガロン半(六升四合)よりも多い平均産額を獲ること、又は精油に際して曩に推計した費用よりも少なくなること、又は石油の値を三圓三十錢よりも高くで賣ることに係つてゐる。我等の希ふ所は、我等の調査と地圖とによつて確かに含油層の露頭と其の位置を表示し其の爲めに全く不成功な油井の數を減ずること